

小さな幸せ

今までに数回、子供時代のことを書いてきた。島根県の中国山地の麓は、冬には豪雪地帯で夏は猛暑だが涼しい風が吹きぬける。秋は紅葉の美しさを目に焼き付けてくれた。四季の思い出は色あせることなく歳を重ねるごとにますます浮かんでくる。

小学生になるまで過ごした所は現在、町の催し場所になり、住居は町営の宿泊場所になっている。約70年以上も前の建物であるがしっかりと建っている。以前、飄々を書いたけれども、わさび泥棒に間違えられた所でもある。良い思い出ではないが、あれからも3～4回訪れた。春、秋は特に心が癒される。当時の屋根は、茶色の石州瓦か茅葺屋根であった。その風景を最近は見ることが少なくなった。

今年の3月初めに写真仲間の方から「先生の原風景を見つけたので見に行こう」と誘われ、3月9日に出かけた。その日は天気も良好で山口市の天花に車を走らせた。狭い車線を慎重に運転し目的地に到着した。すぐに昔の私に戻った。爽やかな草の香りと清浄な空気に包まれた。梅の花も満開であった。幼児期に帰還した。夢中で撮影に没頭した。その中の1枚を山口市医師会報の3月号の表紙写真に提供した。

最近のドライブコースは相変わらず中国山地、日本海の沿岸部、津和野町である。ゆっくりとドライブできるからだ。また道路が素晴らしい。とりわけ山口県はあまり利用されていない所でも舗装されている。中国道の戸河内ICまで行き、そこから益田まで行く。その途中、美都温泉に入浴す

飄

々

広報委員

渡邊 恵幸

ることがある。ここはあまり混まずに、ゆっくりと入ることができる。ぬるぬるした湯質も魅力的である。この温泉の近くに秦佐八郎先生の生家もある。以前にも書いたけれども秋の紅葉が素晴らしい。

途中で気に入った所で車を止めて道の駅で購入したお弁当とお茶で昼食をとる。いつも同伴してくれる妻と雑談をしながら、景色に見入る。お弁当と同様に空気も美味しい。静寂の中で二人きりである。時には今までの来し方、これから先のこと、子供のことや経営のことなどを話しあう。大自然の中では素直になれる。リフレッシュした気分で帰途につく。

豪華な食事や宝石、外国旅行などではないけれど貴重な大切な時間である。私にとっては本当に幸せなひと時である。しかも小さな幸せである。何をもって大きなあるいは小さな幸せと言えるのかと質問を受けそうだが、幸せは、本人が心から喜びを感じることであれば、大小に関係なく心から幸せと言えるのではないだろうか。そう考えると幸せを沢山、感じることができる。そして人生に潤いを与えてくれるのである。

先日、「道の駅 阿武町」に立ち寄った。いつものように海に見える裏庭に出た。すると、私たちよりも年上と思われるご夫婦がベンチに座り、海を眺めながらお弁当を食べておられた。その光景を見てみると、お互いに信頼しあっておられることが良くわかった。心が和むひと時であった。

「よっ ご同輩」と心の中で声をかけ、その場を去った。